



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月8日

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所 東・福
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 大西 洋
 問合せ先責任者 (役職名) 業務本部総務部コーポレートコミュニケーション担当 (氏名) 滝口 一雄 (TEL) 03-6205-6003
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月10日 配当支払開始予定日 平成28年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	582,173	△5.2	6,100	△57.9	7,578	△55.0	8,338	△23.3
28年3月期第2四半期	613,868	5.5	14,499	48.6	16,823	50.1	10,868	78.1

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △6,905百万円(-%) 28年3月期第2四半期 13,511百万円(290.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	21.29	21.21
28年3月期第2四半期	27.57	27.47

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,242,027	564,210	44.6
28年3月期	1,293,043	574,316	43.6

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 554,438百万円 28年3月期 563,264百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
29年3月期	—	6.00			
29年3月期(予想)			—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,250,000	△2.9	24,000	△27.5	25,000	△31.9	13,000	△51.0	33.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期2Q	395,166,354株	28年3月期	395,118,414株
29年3月期2Q	3,466,722株	28年3月期	3,464,401株
29年3月期2Q	391,672,815株	28年3月期2Q	394,162,441株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年9月30日)における我が国経済は、雇用環境においては堅調に推移しているものの、景気は足踏み状態が続いています。小売業においても、引き続き国内の個人消費が停滞しているのに加え、これまで好調であったインバウンド需要が円高や中国の輸入関税の引き上げ等により前年を下回るなど、非常に厳しい状況となっています。

このような状況のなか、当社グループは長年培ってきたノウハウ・リソースを結集することで「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」となることをめざし、世界に認められるあたらしい価値の創出に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は582,173百万円(前年同四半期比5.2%減)、営業利益は6,100百万円(前年同四半期比57.9%減)、経常利益は7,578百万円(前年同四半期比55.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,338百万円(前年同四半期比23.3%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 百貨店業

百貨店業におきましては、仕入構造改革の一環として食品部門では初めての独自ブランドとなる「ISETAN MITSUKOSHI THE FOOD」を立ち上げました。お客さまの食への好奇心に応えるとともに、生産者や食文化への想い、素材や製法の吟味を大切にしながら、未来に伝えたい品々を取り揃え、末永くお使いいただける定番を目指してまいります。

伊勢丹新宿本店では、三越伊勢丹らしい「独自性」「希少性」を追求した秋のオンリー・エムアイキャンペーンを開催し、3階モードフロアでは「オルタナティブ・カルチャー」をテーマに“ヴィンテージ”“希少性”“オーダー”等をキーワードとした「ファッションミュージアム」に相応しい新たなファッションの楽しみ方をご提案いたしました。また、これまで伊勢丹新宿本店として取り組んでいたデジタルプロモーションを、日伊国交150周年を記念した「イタリアウィーク」において全国6店舗に拡大展開し、「デジタル技術を駆使して五感で体感するイタリアのモノづくり」をコンセプトにイタリアの街並み、音楽、最先端のファッションをVR映像、4Kの高精細映像で体感していただくなど「ファッションとデジタルの融合」に取り組んでまいります。

三越日本橋本店では、「カルチャーリゾート百貨店」のコンセプトに則り、9月には「商品に込めた想い」「商品誕生までのストーリー」をご紹介する初のイベント「ミツコシ エクスペリエンス ギャザリング」を開催し、商品開発に携わったメンバーが自ら映像や音楽を駆使しプレゼンテーションいたしました。

首都圏以外の国内グループ百貨店では、株式会社名古屋三越において栄本店と隣接する専門館ラシックを順次改装し、2館で1つの商業施設「SAKAEファッションモール」として、親子3世代が楽しめる名古屋随一の高感度ファッションモールを構築してまいります。その第1弾として栄店6階ウオッチ&ジュエリーを中部地区最大級のスケールで10月にリフレッシュオープンいたしました。

中小型店舗につきましては、当社グループの強みである編集力とチャネル開発力を活かし、お客さまとの接点拡大に向けて出店を進めています。その一つとして、「イセタンミラー」が9月に14店舗目となるルミネ荻窪店をオープンいたしました。また、10月には中部国際空港内に「イセタン セントレア ストア」がオープンし、既に羽田空港ターミナル1、ターミナル2で営業しご好評いただいている「イセタン羽田ストア(メンズ)」のコンセプトを踏襲しながら、さらに進化させたメンズストアを目指してまいります。

また、新たな顧客ニーズに対応するために積極的に新規事業の創出を図り、その一つとして豊かなライフスタイルを送るお客さまに向け、会員制サロン「3rd_PAGE(サード ページ)」を青山に9月21日にオープンいたしました。会員でなければ体験できない希少価値の高いセミナーやワークショップ、コンシェルジュサービスをご提供してまいります。

海外百貨店業につきましては、世界から日本への関心が高まっている中、本物の日本を海外のお客さまにお伝えする新しいコンセプトのスペシャリティストアを10月にフランスのパリとマレーシアのクアラルンプールでオープンいたしました。「The Japan Store ISETAN MITSUKOSHI Paris」はパリ日本文化会館のグランドフロアに位置し、日本文化の本質、新しさ、面白さ、多様性を提案しております。クアラルンプールの「ISETAN The Japan Store Kuala Lumpur」では6層の店舗すべてが高品質な日本発、地方発の品揃えとし、200を超えるブランドを展開して「本物の日本」をお届けしてまいります。約11,000㎡ある店内はフロア全体を回遊式日本庭園に見立てて東屋を配置し、海外店舗では初めてのストアデザインです。さらに、企業メッセージである“this is japan.”の世界観を発信するため、9月にイタリアで開

催された靴の展示会「The MICAM（ミカム）」へ“Isetan Shoes”を初出展いたしました。婦人靴オリジナルブランド“ナンバートゥエンティワン”で培ったモノづくりのノウハウを生かし、2017年春夏モデルを出品いたしました。

EC事業におきましては、6月に全国の豊かな暮らしを志向するお客さまへアプローチするためにラグジュアリーオンラインストア“NOREN NOREN ISETAN MITSUKOSHI”を「ファッション」「宝飾品」のブランドを核にオープンいたしました。秋にはさらにカテゴリーを増やし、「食品」「リビング」「アート」等、取扱いMDの規模を拡大しています。

一方、将来的に収益の改善が見込めない店舗については構造改革を行い、限られた経営資源を新たな成長分野に再配分し、これまで以上にご満足いただけるサービスを提供することで積極的な成長を果たしていくべきであるとの認識に至り、三越千葉店、三越多摩センター店の営業を平成29年3月（予定）に終了することといたしました。

なお、このセグメントにおける売上高は532,330百万円（前年同四半期比5.9%減）、営業損失は458百万円（前年同四半期は営業利益8,957百万円）となりました。

② クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業におきましては、株式会社エムアイカードが外部利用の拡大と共に提携カード発行による会員規模の拡大を目指しており、野村不動産グループの会員を対象に「野村不動産グループカスタマークラブゴールドカード」の発行を10月から開始いたしました。不動産業界と百貨店業界が提携・発行する初めてのカードで、野村不動産グループでのご利用（仲介、リフォーム等）に対してエムアイポイントを付与する等、サービスの向上を図ってまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は18,390百万円（前年同四半期比3.9%増）、営業利益は3,042百万円（前年同四半期比1.0%減）となりました。

③ 小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、株式会社三越伊勢丹フードサービスが11月に発信型ライフスタイルストア「FOOD&TIME ISETAN」をアトレ品川にオープンいたします。「嗜む」「作る」「食べる」「過ごす」の4つのエリアで、高感度なお客さまに食に関する専門性と食から広がるライフスタイルを提案してまいります。また、8月からはクイーンズ伊勢丹15店舗全店でTポイントサービスを開始するなど、今後もお客さまの利便性を高めてまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は26,615百万円（前年同四半期比1.7%減）、営業損失は820百万円（前年同四半期は営業損失734百万円）となりました。

④ 不動産業

不動産業におきましては、株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザインがスタジオアルタ跡地を活用し、新たに「ALTA THEATER（アルタシアター）」を11月にオープンいたしました。幅広い世代の男女を対象に、ライフスタイルに欠かせない「音楽」「映像」「サブカルチャー」をテーマに旬なコンテンツを発信してまいります。株式会社三越伊勢丹不動産では、保有不動産を活用した分譲マンション事業等を資本業務提携先である野村不動産株式会社と進めております。

なお、このセグメントにおける売上高は20,253百万円（前年同四半期比9.1%減）、営業利益は3,162百万円（前年同四半期比1.9%増）となりました。

⑤ その他

その他事業におきましては、株式会社三越伊勢丹旅行が10月よりインバウンド向け旅行サイト「VOYAGIN」にプレミアムクルーザーで行く富士山と箱根の日帰り旅行のご紹介をスタートし、インバウンドのお客さまに向けて顧客接点を拡充してまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は37,320百万円（前年同四半期比7.8%増）、営業利益は1,044百万円（前年同四半期は営業損失87百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,242,027百万円となり、前連結会計年度末に比べ51,015百万円減少しました。これは主に、現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものです。

負債合計では677,817百万円となり、前連結会計年度末から40,909百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が減少したことなどによるものです。

また、純資産は564,210百万円となり、前連結会計年度末から10,106百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方で、為替換算調整勘定が減少したことなどによるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前第2四半期連結累計期間末に比べて2,240百万円増加し、43,192百万円となりました。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、3,844百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間に比べ、12,303百万円の収入減少となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が9,554百万円減少したことなどによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、13,020百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間に比べ、801百万円の支出増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1,136百万円増加したことなどによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,967百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間に比べ、3,703百万円の支出減少となりました。これは主に、社債の償還による支出が減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、平成28年10月28日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	67,971	44,449
受取手形及び売掛金	128,756	113,768
有価証券	5	576
商品及び製品	60,475	62,151
仕掛品	119	144
原材料及び貯蔵品	771	880
その他	51,535	56,327
貸倒引当金	△3,303	△3,271
流動資産合計	306,331	275,026
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	175,559	171,466
土地	532,074	529,727
その他(純額)	23,667	24,155
有形固定資産合計	731,302	725,348
無形固定資産		
ソフトウェア	21,958	23,702
その他	36,625	36,482
無形固定資産合計	58,583	60,184
投資その他の資産		
投資有価証券	114,569	100,774
その他	82,466	80,955
貸倒引当金	△280	△324
投資その他の資産合計	196,755	181,406
固定資産合計	986,641	966,939
繰延資産		
社債発行費	70	62
繰延資産合計	70	62
資産合計	1,293,043	1,242,027

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	119,255	97,130
短期借入金	58,871	71,378
コマーシャル・ペーパー	23,000	29,000
未払法人税等	6,047	4,305
商品券回収損引当金	26,514	25,703
引当金	18,516	15,709
その他	167,961	159,263
流動負債合計	420,167	402,491
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	74,000	56,300
繰延税金負債	142,507	137,540
退職給付に係る負債	42,122	41,903
引当金	40	40
持分法適用に伴う負債	3,972	4,187
その他	15,917	15,354
固定負債合計	298,559	275,326
負債合計	718,727	677,817
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,276	50,299
資本剰余金	323,407	322,670
利益剰余金	184,908	190,897
自己株式	△6,280	△6,282
株主資本合計	552,312	557,584
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,830	1,349
繰延ヘッジ損益	△0	△2
為替換算調整勘定	10,327	△2,402
退職給付に係る調整累計額	△2,206	△2,090
その他の包括利益累計額合計	10,951	△3,146
新株予約権	1,681	1,636
非支配株主持分	9,371	8,135
純資産合計	574,316	564,210
負債純資産合計	1,293,043	1,242,027

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	613,868	582,173
売上原価	440,845	410,743
売上総利益	173,023	171,430
販売費及び一般管理費	158,523	165,329
営業利益	14,499	6,100
営業外収益		
受取利息	450	357
受取配当金	429	444
持分法による投資利益	2,971	2,076
固定資産受贈益	1,043	1,091
その他	532	850
営業外収益合計	5,428	4,820
営業外費用		
支払利息	575	505
外国源泉税	851	701
固定資産除却損	643	712
その他	1,033	1,422
営業外費用合計	3,104	3,342
経常利益	16,823	7,578
特別利益		
固定資産売却益	—	1,156
投資有価証券売却益	110	—
特別利益合計	110	1,156
特別損失		
投資有価証券評価損	—	537
固定資産処分損	327	409
店舗閉鎖損失	—	886
事業構造改善費用	150	—
特別損失合計	478	1,833
税金等調整前四半期純利益	16,456	6,901
法人税等	5,947	△1,187
四半期純利益	10,508	8,088
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△359	△250
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,868	8,338

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	10,508	8,088
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△444	△895
繰延ヘッジ損益	△1	△3
為替換算調整勘定	△337	△4,120
退職給付に係る調整額	△12	116
持分法適用会社に対する持分相当額	3,798	△10,090
その他の包括利益合計	3,002	△14,993
四半期包括利益	13,511	△6,905
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,129	△5,758
非支配株主に係る四半期包括利益	△617	△1,146

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	16,456	6,901
減価償却費	12,405	12,888
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,263	△4,535
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2	13
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	155	△231
受取利息及び受取配当金	△880	△802
支払利息	575	505
持分法による投資損益(△は益)	△2,971	△2,076
固定資産売却損益(△は益)	—	△1,156
投資有価証券評価損益(△は益)	—	537
売上債権の増減額(△は増加)	13,207	14,562
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,153	△2,519
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,724	△20,615
未払費用の増減額(△は減少)	△2,144	△4,467
未払金の増減額(△は減少)	△3,240	△2,342
その他	△2,054	914
小計	7,369	△2,423
利息及び配当金の受取額	4,942	4,161
利息の支払額	△582	△526
法人税等の支払額	△3,271	△5,056
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,458	△3,844
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,710	△1,102
定期預金の払戻による収入	7,482	3,075
有形固定資産の取得による支出	△10,041	△11,178
有形固定資産の売却による収入	71	2,721
無形固定資産の取得による支出	△4,668	△5,498
敷金及び保証金の回収による収入	1,254	1,381
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,322	193
その他	△1,928	△2,613
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,218	△13,020
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	276	806
長期借入れによる収入	4,000	2,300
長期借入金の返済による支出	△5,000	△8,300
社債の償還による支出	△12,000	—
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	13,000	6,000
配当金の支払額	△4,315	△2,342
その他	△1,631	△431
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,670	△1,967
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△2,213
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△9,432	△21,045
現金及び現金同等物の期首残高	50,299	64,238
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	85	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,951	43,192

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・ 友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	564,648	9,518	20,531	12,489	607,188	6,679	613,868	—	613,868
セグメント間の内部 売上高又は振替高	881	8,186	6,536	9,797	25,402	27,925	53,327	△53,327	—
計	565,529	17,705	27,068	22,287	632,590	34,605	667,195	△53,327	613,868
セグメント利益又は損 失(△)	8,957	3,073	△734	3,104	14,401	△87	14,313	185	14,499

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額185百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・ 友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	531,734	10,380	20,373	12,497	574,985	7,187	582,173	—	582,173
セグメント間の内部 売上高又は振替高	595	8,009	6,241	7,756	22,603	30,133	52,737	△52,737	—
計	532,330	18,390	26,615	20,253	597,589	37,320	634,910	△52,737	582,173
セグメント利益又は損 失(△)	△458	3,042	△820	3,162	4,925	1,044	5,970	129	6,100

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額129百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗閉鎖損失に含めて表示しております。